

令和6年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 13	公益目的事業 19
主査名	金 利昭 茨城大学名誉教授	
研究テーマ	都市内道路の将来ビジョン選択に関する研究	
<p>世界も日本も極めて大きな社会変動期にある。世界規模では地球環境問題、エネルギー問題、不安定な世界情勢、日本国にあっては急激な人口減少と高齢化会、経済活動の長期低迷、地域格差・貧富格差の拡大と社会不安、予想を超える AI の浸透など。日本国はどこへ向かえばよいのか？ 将来日本をどうするか？ そのための社会資本整備はどうすべきか？ 国の審議会では様々な議論がなされて提言が公表されている。交通分野では、国土交通省（2020年6月）の「2040年、道路の景色が変わる～人々の幸せにつながる道路～」、土木学会（2022年6月）の「Beyond コロナの日本創生と土木のビッグピクチャー【提言】～人々の Well-being と持続可能な社会に向けて～」、一般財団法人運輸総合研究所（2023年6月）の「2050年、どうする公共交通 2050年の日本を支える公共交通のあり方に関する提言」が代表だろう。</p> <p>しかし、どの将来ビジョンを見ても、要素技術・個別施策を網羅的に取り込んだ総花的ビジョンのように見える。将来ビジョンは、単なる理想ではなく、実現するための施策に反映されなければならない。すなわち、将来ビジョンは、実現させるものと実現を諦めるものとを対比させた価値判断であり、優先順位をつけた施策の集合としての社会選択の問題として捉えるべきと考える。</p> <p>本研究で対象とする道路は、日常生活圏にある都市内道路である。ここでも、一方でウォークアブルや滞留空間が叫ばれ、他方でモビリティの多様化と自動運転・自動配送ロボットの利活用が叫ばれている。どこに優先的な価値を置くべきかー産業経済の活性化か、移動の安全性・利便性・快適性の向上か、高齢化や健康への配慮か、地球環境問題や SDGs などを含めた持続可能な社会の実現か、公平な移動権の保証か。その優先価値を実現するために施策の優先順位をつける必要があると考える。本研究は、日常生活圏にある都市内道路を対象とし、「道路ビジョン」を社会選択の問題と捉え、施策の優位順位を含めた道路ビジョンごとの複数シナリオを作成し、Web 意識調査を用いて将来の社会選択の問題として人々の意向を明らかにすべく研究を進める。</p> <p>①道路を中心に、「将来ビジョン」を収集し、どのような思想・理念の下で、どのような施策が展開されているかを、優先関係に留意しながら整理する。ここでは専門家のゲストスピーカーによる報告を予定する。</p> <p>②将来の社会理念及び、そのための施策優先順位が異なる複数の将来ビジョン・シナリオを作成する。</p> <p>③Web アンケート調査により、将来ビジョン・シナリオに対する社会的受容性を分析する。</p>		